

敬学会賞第三十九回入選作品

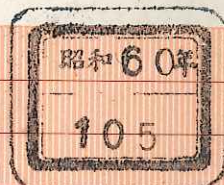
Campus®

NOTEBOOK

Campus notebooks contain the best ruled foolscap suitable for writing.

A 普通横野

水口雄介 (6年2組)



ほくのうちの歴史

敬学会研究

目 次

P.1 目 次

- ..2 敬学会 研究計画
- ..3 調べたいこと
- ..4 研究 開始
 - 1. 先祖のことについて
- ..5 先祖と水口町の関係
- ..6 先祖にはどうい う人がいるか
- ..7 先祖の着ていた衣類
- ..8 家 系 図
- ..9 水口家が現在にいたるまで

敬学会研究計画

6年2組 水口雄介

研究題目 ぼくのうちの歴史 教科 社会

1. 研究をはじめたわけ

ぼくのうちの倉には、むかしのものがいっぱいありました。そのことを、母から聞いたら先祖に和算家がいたとゆうことでした。ぼくの先祖の人に興味を持ち、ぼくの家を歴史を研究することに決めました。

2. 調べたい事

1. うちにはどういった古い物があるか
2. 今の物とむかしの物をひかくする
3. 先祖にはどんな人がいたか

4. 研究計画

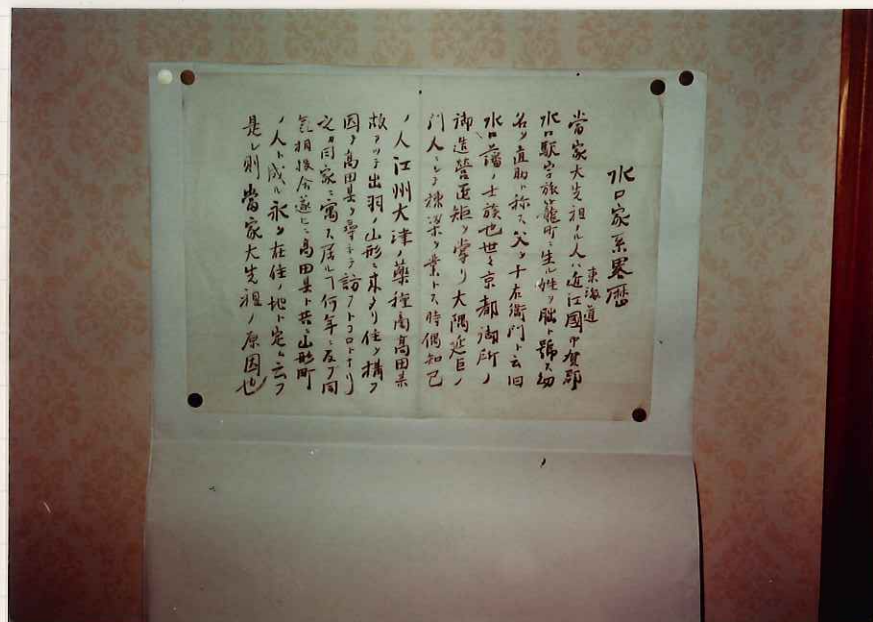
1. 調べたいこと・研究していく順序 2. どんな方法で 3. いつ

水口町に問い合わせる	手紙を出す	5月
おくらの中を調べる	写真をとる	8月
先祖のごとき	祖父母に聞く	8月
〃	資料などを見て	〃
清書をする		9月

No.

Date

4. 敬学会研究記録



ぼくの祖父は10代目の水口久兵衛です

初代の久兵衛は滋賀県の水口町出身です。そして
もとの苗字は舩(みかつま)と名のっていました。けれど
山形にくるときに、水口町の水口を名のって山形に
きました。初代は近江商人だったので山形の現
在地で商売を始めました。

近江商人とは

てんびんぼうをかついで各地へでかけ近江の生
産物を行商地で売り、その地の生産物をつぎの
行商地で売るとう持ち下りあきない、とよばれ
る方法で戸別販売をしました

水口町には

水口と水口という姓の人がいるか？
みかき

滋賀県水口町に手紙を出した結果

水口という姓 32人 水口という姓 0人

山形市に往んでいる人の水口姓は五人(みかき 1人)

水口町は往古の伊勢大路にあたり、春王奉幣使、將軍の伊勢参宮をはじめ、古代中世の延喜式にみえる甲賀駅や近世における江戸時代の水口宿が、東海道五十三次の宿駅として諸大名の参勤交替もあって交通上重要な位置にありました。また、中村一氏の岡山城、小堀遠州の築地による水口城などあり、城下町としてその名も世にひろく知られています

人口

人口

60年4月1日現在

人口 28,527人

世帯数 7,233戸

水口 雄介

昭和 60. 6. 10 日

滋賀県甲賀郡水口町役場

住民課 窓口係

(担当)

下記を理由により、送付・返送・転送

回答

照会します。

記

- 水口の姓 60年4月1日現在 27名(人)
- 水口の姓 なし

別紙パンフレット「みかき」お送り
いんていにてお送りいたします。

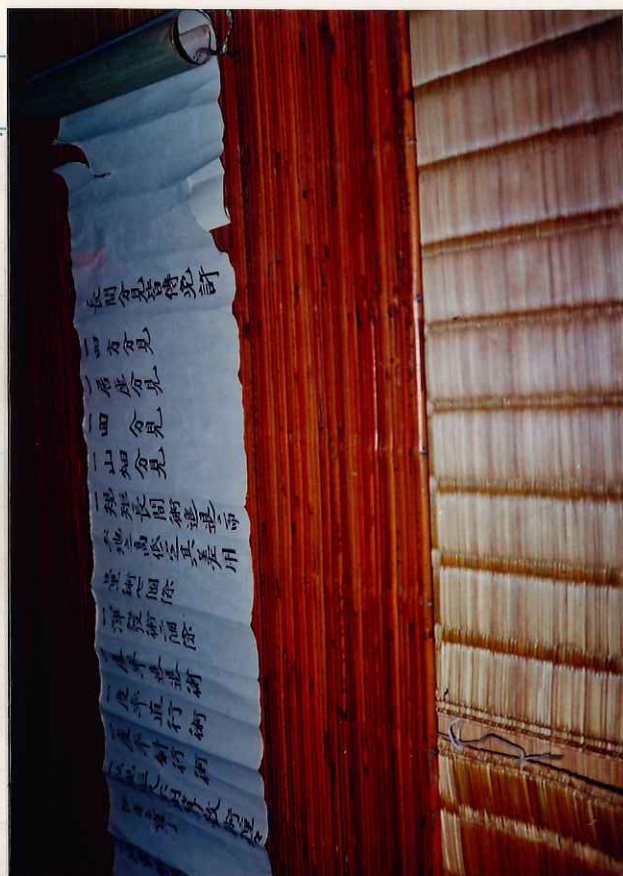
油業をやっていた時、品物に貼っていたシール



初代は舩直助といひ、近江国甲賀郡舩村より天文二年(1737)山形に來り、水口久兵衛と名のり移住し油業(かんづけ、香油、ろうそく)主とし紅花、その他を渡世とし百年前名字たいとうのさ、水口屋を屋号とした商家。むかしから油業を営み、すべて手作り作業で特製の油であった。店の看板はうさぎのマークで名をしられていた。



和算に
対して
のめん
きよか
いびん



8代水口作治はかい名を数学院綜養無量静安居
土という。そして山形の会田安明^{算左衛門}という人が延享4年
(1747⁷年)生まれ、23才のとき、江戸に出て武士となったが、
41才のときに、数学に専念し、最上流という和算を成
めたのです。数学院は日本に最上流という和算
を成めた会田安明(のちに算左衛門と称す)先生の一番弟
子です

和算

和算は、代数、幾何、微積分
など、そろばんと算木をつか
って計算しました



和算書



85 8 12

三代目久兵衛(一作)の妻ツヤが文政4年(1857年)

よめいりの時に持参した宝物は、当時の服はく文化の
中心であった江戸文化あるいはまた力を持っていた
京文化のよう式をそのままおんぞんしてある、水口家
は京阪あるいは江戸との交流がひんぱんであり
そのえいきょうを強くうけていた。

水口ハツ(三代目久兵衛)

幼少期 文政6~天保1
着用した祝着



図(2)A

亀綾織絹地鶴亀・松竹梅福寿文
藍・墨・紅曙染女中裁祝着



安政5～11月迄

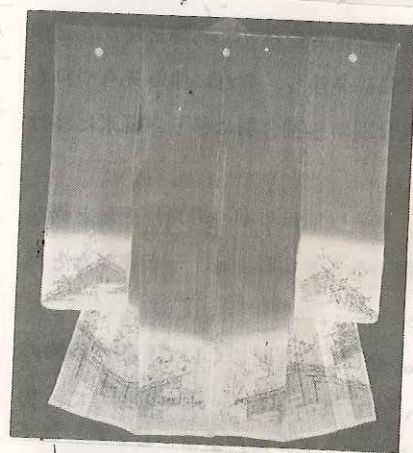


図(5)A



(5)B

水口作治 安政5年 幼少のころ着用したもの



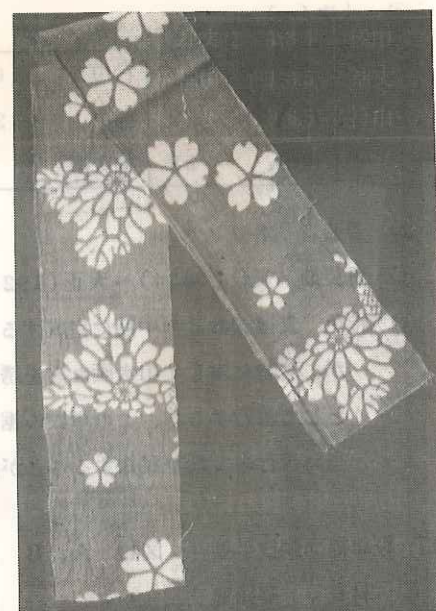
七



七代目 (作の妻 水口ツカの着たもの)

産衣につかわれた

江戸期の一般家庭では紅花染めを京都迄染めに出すことは大変な事だったので、自家製の紅花をもみ出しましたは紅花糸井のもみ出しの最初の捨汁にて染めて使用したものである



FUJICOLOR HR 85

紅花と糸井
(くちやい)

油を作る時の道具



油を作るもと

なり油を作る時のはち



店の看板の版画



油ばち



かざりつぼ

家系図

No.

Date

初代 (1764) 明和

直助

(久兵衛)

妻
(工藤氏娘)

2代 (天保元) 不明 (久右衛門) (宮内藤左門娘)

(天保元)

3代 源吉 (久兵衛)

きよ

(十日町別家水口屋長平次娘)

(寛政4)

4代 茂吉 (久右衛門) おう (3代久兵衛長女)

(天保11)

(むこ)

三日町高田常介4男

5代 久右衛門 (久兵衛)

りえ

(蟹沢村阿部彦六娘)

(文久2)

6代 佐助 (久右衛門)

はつ

(5代久兵衛長女)

(かん11)

(むこ)

7代 一作 (久兵衛)

ツヤ

(市村五郎兵衛3女)

(明治)

8代 作治 ()

きち

(十日町西谷彦兵衛4女)

(昭和12)

() は没年

9代 考作 (兵衛)
(昭和)

人文字屋
乙子 (五十嵐太右衛門5女)

10代 香彌 (")
(祖父)

定子 (柳町佐久間家次女)
(祖母)

11代 淳三郎
(父)

美知子 (南陽市山口家次女)
(母)





水口町の位置とその周辺



みなくち

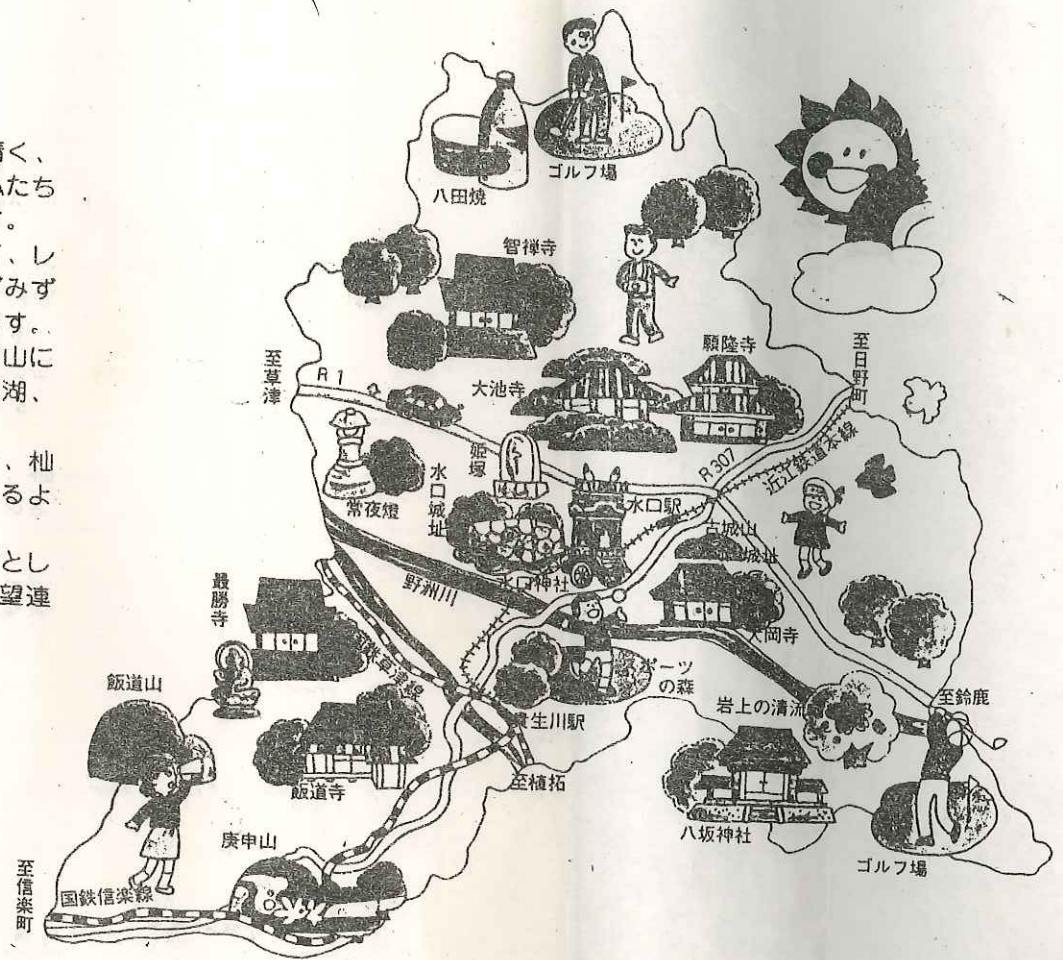
野洲川や杣川の水はあくまで清く、
湖南アルプスは緑にかがやき、私たち
のまちには自然にめぐまれています。

こうした豊かな自然を利用して、レ
クリエーション施設も整い、みずみず
しい自然を満喫することができます。

町の南西端にある飯道山は、登山に
最適で、山頂からは金勝山や琵琶湖、
比良連山の景勝が見わたせます。

庚申山の頂上には展望台があり、杣
川の河景や水口の町並みが手にとるよ
うに見わたせます。

また、野洲川はアユ釣りの名所とし
て知られ、解禁日を皮切りに太公望連
でにぎわっています。



沿革 水口町は、往古の伊勢大路にあたり、斉王奉弊使、將軍等の伊勢参宮をはじめ、古代中世の延喜式にみえる甲賀駅や、近世における江戸時代の水口宿が、東海道五十三次の宿駅として諸大名の参勤交替もあつて交通上重要な位置にありました。また、中村一氏の岡山城、小堀遠州の築城による水口城などがあり、城下町としてその名も世にひろく知られています。

明治以後は世相が一変し、交通の発達と官公庁、産業施設などの設置により、甲賀地方の中心地として発展してまいりました。

その後、昭和30年4月15日伴谷村・柏木村・水口町・貴生川町の2町2村が、町村合併促進法の趣旨にもとづいて大合併し、さらに翌年、隣接する土山・甲賀の両町から今郷、蟻峨、和野を編入し現在に至っています。

そして現在、本町工業開発の一大拠点として水口工業団地の造成をはじめ、スポーツの森の建設など、住みよい豊かな文化都市、産業都市、観光都市の建設をめざしての努力がつづけられています。

自然 町の南西部には海拔664mの飯道山が盛りあがり、東部にも海拔140～230mのゆるやかな丘陵地帯が分布しています。町の中央部には鈴鹿山系を源とする野洲川と、その支流の仙川が西流し、沿岸には肥沃な沖積平野がひらけています。

気候 湖南地方は、湖北地方の日本海式気候にくらべ南紀地方の気候に似て温暖です。降霜は11月中旬から4月下旬まで見られ、降雪も12月から3月の間数回みられるが根雪とはならず、風は年間を通じて北西風が多く、春から夏は暖かい東南風が吹きます。

位置 本町は、東経136度0分22秒、北緯34度5分15秒に位置し、滋賀県の南部にあります。町域の北部は竜王町・蒲生町に、東は日野町・土山町、南は甲賀町・甲南町、西は信楽町・甲西町にそれぞれ境を接しています。

人口 本町の人口は、合併が施行された昭和30年には21,668人で、その後も工場誘致、工業団地の造成など生産都市への形成をととのえながら住宅団地の造成とともに人口も徐々にではあるが増加の傾向をしめしています。そして、昭和55年10月現在の人口は27,471人となっています。

60年4月1日現在 人口 28,127人
世帯数 7,200戸

水口町見てあるき

静かな自然環境のなかに、いまもなおとどめられている水口八景—大池寺蓬萊の庭、城山の翠嵐、大岡寺の桜、水口まつり、岩上の清流、笠かけの老杉、飯道の朝露そして庚申の秋色は、いずれも四季それぞれの趣きを秘めて郷土をゆたかに彩っている。

町内には、甲賀地方が古代豪族・鹿深氏の支配下にあったことを裏付ける古墳、悲劇の武将、岡山城主・長束正家の室、栄子姫の姫塚、旅人の道しるべとなった常夜燈など、町の歴史をたどってきた数々の史跡が点在している。

また、ふる里の民芸・八田焼は、素朴きゆえに各地に静かな人気を呼んでいる。

飯道の朝霞 (三大寺)

役の行者大和の人小角がこの山に入り修験道を修し一山の寺房36と称された。現在は飯道神社の外寺房趾の一部をのこすのみであるが、織田信長の国見や木食上人の遺跡は今もその昔をしのばしめるものがある。

標高 664m の峰々は国鉄指定のハイキングコースとなっている。

△三大寺口コース	国鉄貴生川駅	1400m	飯道寺	2000m	頂上
				(山道)	
△岩坂口コース	国鉄貴生川駅	1600m	岩坂	3200m	頂上
△牛飼口コース	国鉄貴生川駅	3200m	小野茶屋	1600m	頂上
				(山道)	

水口まつり (宮の前)

水口まつりは、大水口宿称命を祀る水口神社の大祭で毎年4月20日古式により行われ、剣鋒神輿曳山等壮厳であり、この伝統は享保のころから200年間欠くことのできない行事となつて今日に及んでいる。16基の曳山からくり出す鉦や太鼓、笛の入った“はやし”は「水口はやし」として滋賀県無形文化財民族資料に指定されている。

城山の翠嵐 (水口)

年よりてむかしを語る松風の

音だにたえし 岡の城山 羽根田 文明
天正13年中村式部少輔一氏が城山の頂上に岡山城を築城
(標高281m)

慶長5年9月17日城主長束正家落城の後廃城となる。

享保元年大岡寺の寺僧寂堂の手によって建立された阿伽宮には施無畏尊を斎祀し、毎年4月17日には例祭を行い一般の参詣人多く、又附近の眺望よく町民の“憩いの場”として連日登頂者あり。

観光水口八景

笠かけの老杉 (高山)

笠山神社の御神体は、人皇第11代垂仁天皇の皇女倭姫命にして諸国遍歴の御休憩の際杉の枝に白菅の笠をかけ給うた霊地で“笠かけの老杉”は「瘡山の神」とも称し、難病の霊験いやちこにして、遠くは北海道又京阪神よりの参詣者がその跡を絶たない。

大岡寺のさくら (京町)

今から1280年前白鳳14年6月、僧行基の開基といわれ、本尊の千手観音は国宝であり、その他重要文化財等、幾多の宝物をもつ古刹である。

命二つ中に生きたる桜哉 (芭蕉句碑)
境内に咲き乱れる桜花の美観は又とないながめである。

岩上の清流 (新城)

夢に見て 現に迷ひまほしに

立てる子の名を何といわ神

附近に巨巖が屹立し、これを岩を祀る岩神と称し、住時近在の人々、生れた子を抱いてこの岩の前に立ち、道行く旅人に名をつけてもらい、又この岩を拝ませると長生きをすると信じる奇習があった。

清流野洲川の生きた鮎料理は……春から夏にかけて鮎にひかれ景に憧れる客が多い。水口頭首工附近は瀬が浅いので手掴みもでき河童達のよい遊び場である。

庚申の秋色 (山上)

山上庚申山の頂上に庚申堂があり、文禄2年一貧者が参籠、断食祈念したところ、満願の夜合金の製造を夢に感得して産を興て以来日本真鍮の元祖と崇められるに至った。

又周辺の山々は風光明輝展望絶景にして、春は山つゝ、咲きみだれ、秋は松たけが群生し秋の香物としてその品質も佳良美味で、特に土儀松たけは見ものであって、今や全国的に名を知られている。

大池寺蓬萊の庭 (名坂)

丘陵と池に囲まれた清閑の地に大池寺があり庭園は小堀遠州の作といわれ、桃山時代の様式をとり「さつき」の植込みによって作られ全庭を刈込本位とした。観賞式枯山水庭園として築造、雄大にして温雅なる名庭、江戸時代初期の標準庭として全国的に貴重な存在となっている。

No.

Date

ニ ュ ー 水 口

年 中 行 事

憩いのプラザスポーツの森

みどりゆたかな憩いの広場として地域住民から親しまれているスポーツの森は、野洲川沿いの丘陵地帯を切りひらいて建設されたもので、陸上競技場、サッカー競技場、野球場、ソフトボール場、テニスコート、バレーコート、トリムコース、キャンプ場、ちびっこ広場、プール等を配し、地域住民のスポーツとレクリエーションのための総合施設である。

また、高校総体、滋賀国体のサッカー競技場として利用されるなど、施設の充実したスポーツの森は衆目を集めている。

郷土の森——古城山

岡山城址古城山は、城址のおもかげはうすれたものの、県立自然公園にも指定され、全山ハイキングコースがよく整備され、町民憩いの場として、又、シンボルとして親しまれている。頂上からの展望は遠く琵琶湖をも眺望でき、手軽なハイキングコースとして連日登頂者がある。

江戸時代、明和年間（1764～72年）

に村人武藤佐兵衛、宮地吉兵衛などが信楽から陶工を招いて始めたといわれます。その後、農村の副業として米、徳利、片口、神器、茶器などが焼かれてきましたが、戦後廃業が相つぎ、いまでは六代目湖東重平の名を受けつぐ

八田

4月20日	水 口 祭 (滋賀県無 形文化財 民俗資料)	水口町宮の前 水口神社	国鉄草津線 貴生川駅下車 又は近江鉄 道水口石橋 駅下車	江戸初期より続く湖国郷土芸能 山鉦は16基あり県下でも多い 曳山の中で囃される「水口ばやし」は全国的に有名であり祭礼 当日曳出される山鉦とその「ばやし」は祭気分を満喫させる
7月18日	麦 酒 祭	水口町牛飼 総社神社	国鉄草津線 貴生川駅下車 約3軒	わが国のビールの元祖であり、 素朴な麦酒の神事は有名である 530年より麦酒の祭礼がある
8月16日	燈 籠 流 し (江州飯道 山行者講)	水口町杣川 畔	国鉄草津線 貴生川駅下車 約500米	戦後28年より続く戦没英霊並 びに各家祖先の盂蘭供養川施餓 鬼法要、びわ湖まつり感謝使節 地元代表による元火点火により 探燈護摩供奉修送り火、煙火早 打等夏の夜宴にけんらの祭典

とい合せ

滋賀県甲賀郡水口町水口6053

水口町役場商工観光課

TEL 07486-2-1621

水口町観光協会

No.

Date

みなくち

自然と歴史とスポーツのまち

水

水口まつり



1. いろいろむかしのことを調べてきたが、やっぱりうちのことを調べるとおもしろいことがたくさんあった。現在はおもちゃ屋をやっているが、先祖の時代は、油業をしていた。そのとういふ、女の人ほとんどの人がかみをゆっていたので、その時にひんづけ油をつけていたのでよくうれた。しかし時代の流れで、かみをみじかくしたりパーマをかけたりする人が多くなったので油はつかわなくなった。だから現在のおもちゃ屋に転業した。また8代に数学院といふすばらしい和算家がいたことや代々ひきついで300年にわたっている。

祖父母がむかしのものを保っていてくれたのでこの研究ができたのです。

物を大事にするということもわかった。